

## 夏栽培用ネットメロン品種の適応性

著者	福留 紘二
雑誌名	鹿児島大学農学部農場技術調査報告書
巻	5
ページ	16-17
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10232/9879">http://hdl.handle.net/10232/9879</a>

## 夏栽培用ネットメロン品種の適応性

福留 紘 二

### 緒 言

指宿植物試験場ではガラス温室でのネットメロン栽培を秋（8月播種～12月収穫）、春（11月播種～3月収穫）の2作で行っている。しかし、夏作は高温のためガラス温室での栽培がむづかしく、ビニルハウスでの地床栽培を実施してきた。しかし、この地床栽培では土壌の過湿害やセンチュウ害などに遭うことが多く、これらの対処に苦慮していた。一方、近年ネットメロンの夏系優良品種も数多く見られるようになったので、1995年度よりガラス温室での夏作（3月播種～7月収穫）を導入し、年3作に切り替えた。本実験では夏作として導入した『アールスセイヌ夏系Ⅰ号』及び『アールスセイヌ夏系Ⅱ号』の2品種の生育、収量などの比較を行った。

### 材料と方法

本実験は、指宿植物試験場野菜温室隔離ベッド（南北方向で幅80cm、長さ18m、深さ11cm）を用い、1ベッドに1品種植えとし、5反復した。両ベッドとも連作用土を使用、蒸気消毒をしてから実施した。栽培は1995年3月13日播種、3月20日鉢上げ、4月5日定植、6月30日に収穫を行った。栽培距離は、株間43cm、条間30cmの、2条千鳥植えとした。誘引はビニルテープを使用し、蔓をテープに巻き付ける方法とした。肥料は、1株当たり、全量で菜種油粕100g、骨粉40g、塩化加里26g、苦土石灰45g（N 7.0g : P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 11.0g : K<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 14.0g）、を基肥に80%施し、残りを追肥に施用した。調査は両品種茎葉の生育、果実の形状及び品質について行った。EC、pHについては、収穫時にベッドの5ヶ所より均等に採取し測定した。管理は慣行法で行った。調査結果は計10株と、果実5個の平均値で示した。

### 結果と考察

茎長は2品種とも差は見られなかったが、10～18節の雌花着花率は『夏Ⅰ』のほうが約50%で雌花が飛ぶ傾向がみられ、『夏Ⅱ』の方は約90%で良好であった。茎葉重は生重、乾燥重とも『夏Ⅰ』が大で、さらに、葉面積も上位葉は『夏Ⅰ』の方が大きかった。結果節位は双方ともほぼ同じ位置で、果汁は『夏Ⅰ』がやや縦長（偏球度1.05）で、『夏Ⅱ』はやや扁平（偏球度0.96）であった。果重は1.3kgで、ほぼ同じであり、糖度は『夏Ⅱ』が15.3度で『夏Ⅰ』の14.7度より僅かに高くなった。すなわち『夏Ⅰ』の方が茎葉の生育は『夏Ⅱ』に比べ旺盛であったが、収量、品質には大きな違いは見られなかった。EC、pHとも『夏Ⅱ』の方が高く、肥料要求量は低かった。

### 摘 要

今回供試したネットメロンの夏系2品種は収量、品質には差はなかったが、雌花の着花率の違いが大きく、指宿地方の夏作には『夏Ⅱ』の方が有望であると考えられた。

第1表 夏系2品種の生育の比較

品 種	調査株数	茎葉生重	茎 長	乾物重	葉 面 積			
					5節	10節	15節	20節
夏系 I	10株	666 g	146cm	92.8 g	277.8m <sup>2</sup>	501.0m <sup>2</sup>	607.8m <sup>2</sup>	662.0m <sup>2</sup>
夏系 II	10	574	145	77.2	304.2	530.0	558.0	529.0

第2表 夏系2品種の果実収量、品質の比較

品 種	調査個数	果 重	縦 径	横 径	偏球度 <sup>z</sup>	ネット		糖 (Brix)	着果節位
						盛上り <sup>y</sup>	揃 い <sup>x</sup>		
夏系 I	5個	1.37kg	13.8cm	13.2cm	1.05	4.9	4.6	14.7°	12.4
夏系 II	5	1.33	13.2	13.0	0.96	4.9	4.8	15.3	12.2

z: 偏球度=縦径/横径 Y: ネット・盛り上がり 1 (低) ~ 5 (高) x: 揃い 1 (不良) ~ 5 (良)

第3表 収穫時の用土の EC と pH

品 種	ベッド 1	2	3	4	5
夏系 I	EC 1.3	1.2	1.3	1.3	1.5
	pH 5.69	6.02	6.02	5.96	6.0
夏系 II	EC 1.4	1.4	1.7	1.7	1.6
	pH 6.25	6.35	6.34	6.32	6.34